

4.1.4 ABトラック周辺の地質

既往文献および後述する環境ボーリング結果を用いて、ABトラック周辺の地質断面を作成した。

図 4.1.8 に AB トラック周辺地域の既往文献等ボーリング位置および断面位置図を、図 4.1.9～図 4.1.11 に地質断面図（A～I 断面）を示す。

図に示す様に、AB トラック付近の地層構成は、基本的に表層から、埋土層、沖積および洪積の砂・砂礫の細かい互層、砂礫層、粘性土層が分布する構成となる。

埋土層は、過去、人為的にその下位に分布する沖積および洪積の砂・砂礫を採取した後、粗粒分を抜き取って埋め戻した土と近傍の山砂等から構成される。

沖積および洪積の砂・砂礫の細かい互層は、分布が複雑であるため単層毎の細かい連続性を把握するのは困難である。また、沖積・洪積の境界については、既存文献を参考に、今回掘削したボーリングの貝殻等の分布頻度およびその深度等から推定した。

砂礫層は、AB トラック付近の深度 30m 付近に特徴的に広く分布しその層厚は 1～10m 程度である。

粘性土層は、シルト質砂から粘土を呈しており、砂礫層の下位に広く分布し、その層厚は不明確であるが、AB トラック周辺の表層地下水の水文的基底層（難透水層）になっていると考えられる。

図 4.1.8 に AB トラック付近の粘土層上面コンター図を示す。図に示す様に、粘土層の上面（砂礫層の基底）は、A 井戸から B 地区にかけてはほぼ平坦になるのに対し、B 井戸より西方については、急激に深くなり深度 50m 以上となる。

この深くなっている箇所は、図 4.1.6 に示した過去の堆積環境の過程で形成された谷状部に相当する。

また、この谷状部では、茨城県企業局が設置した工業用水井戸が点在している。

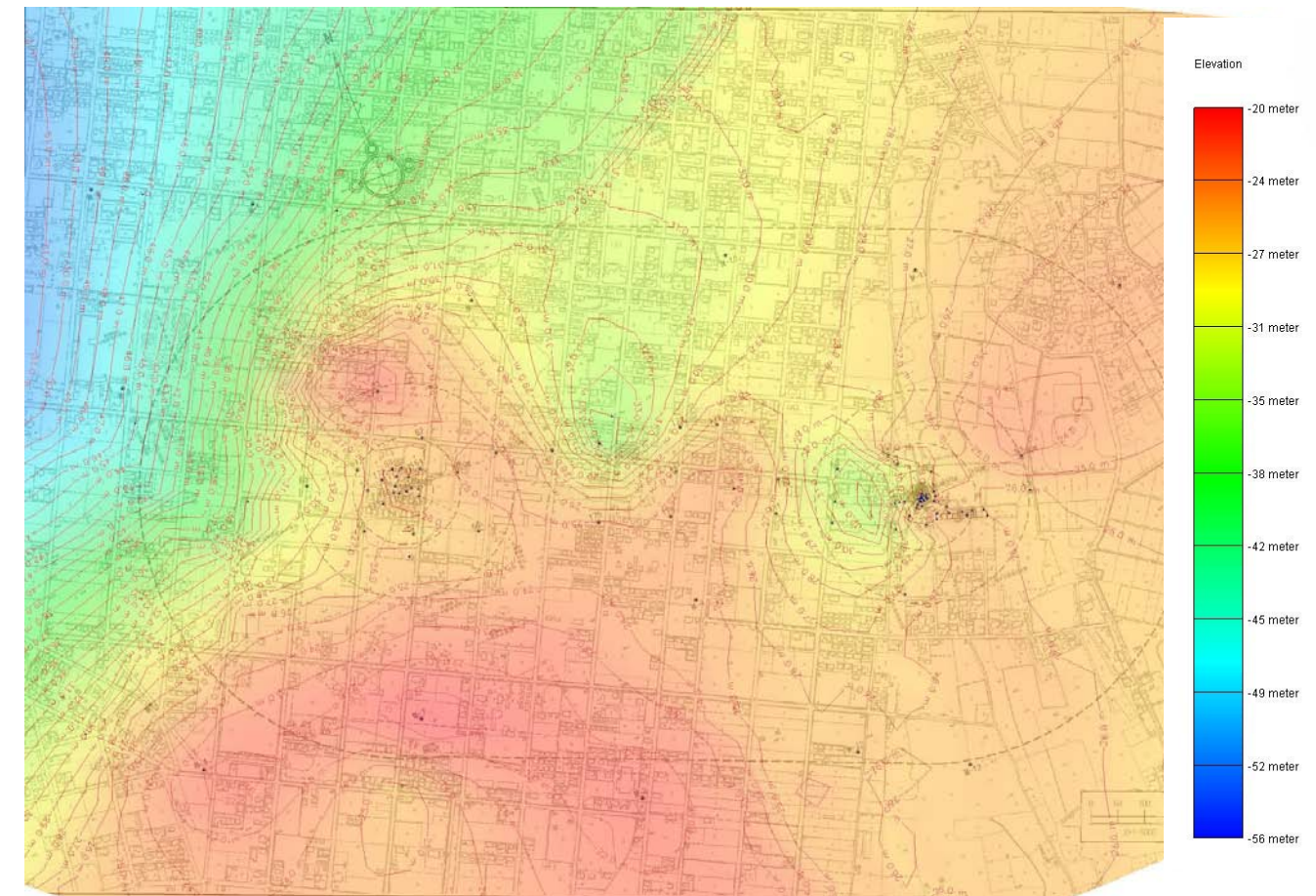
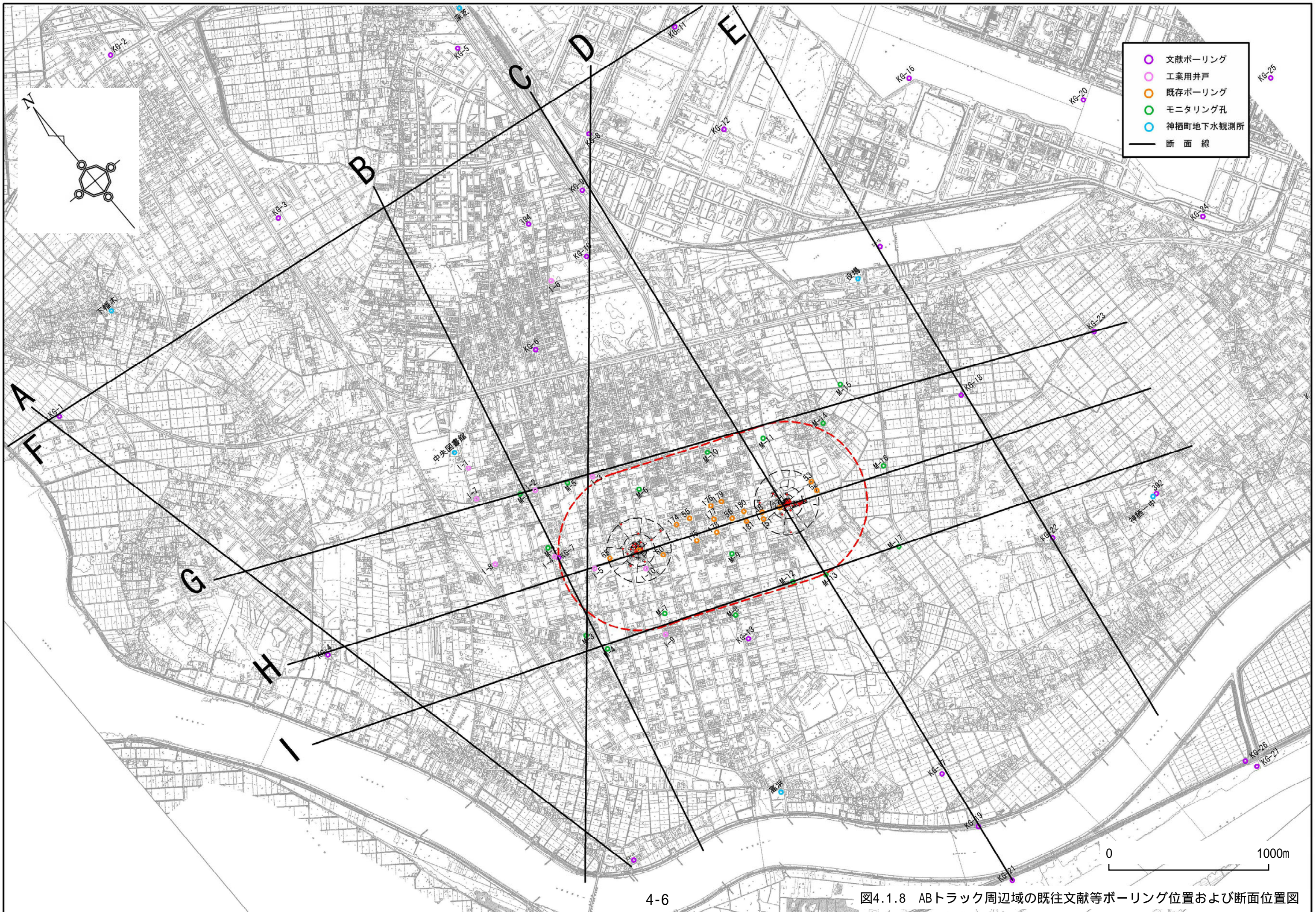


図 4.1.7 AB トラック付近の粘土層上面コンター（標高表示）

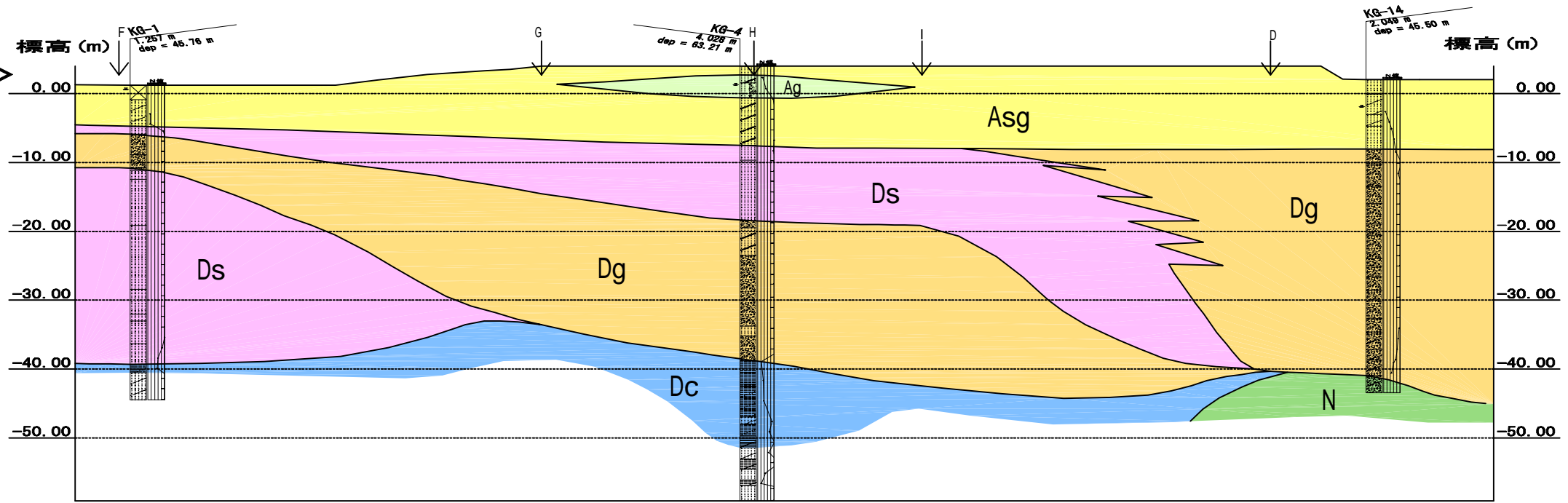
AB トラック付近の地盤高（標高）はおよそ 5～6m



- 文献ボーリング
- 工業用井戸
- 既存ボーリング
- モニタリング孔
- 神栖町地下水観測所
- 断面線

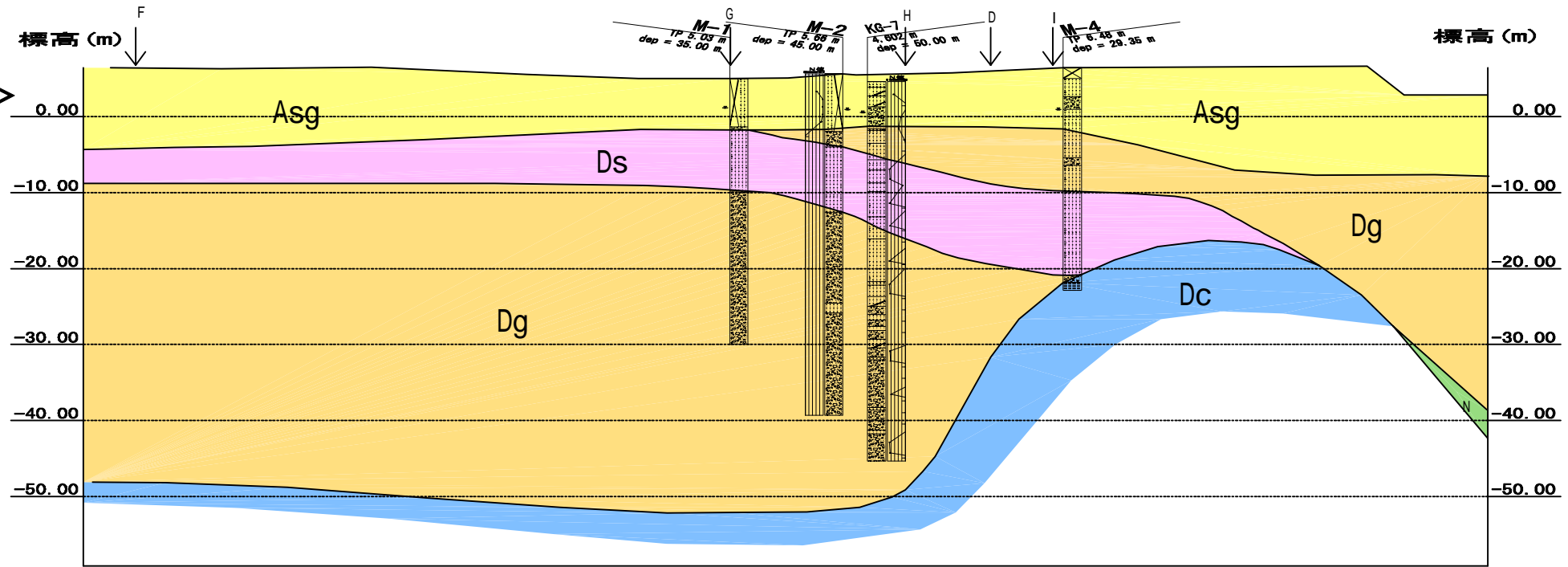
図4.1.8 ABトラック周辺地域の既往文献等ボーリング位置および断面位置図

<A断面>

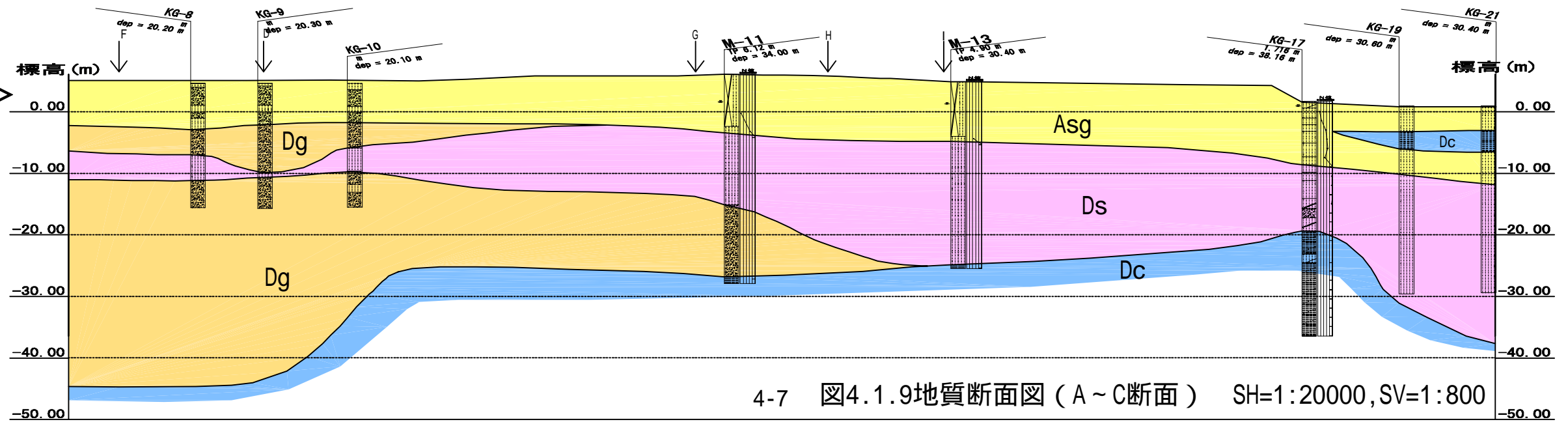


Asg	沖積砂・砂礫
Ds	洪積砂
Dg	洪積砂砂礫
Dc	洪積粘土(難透水)
N	成田層群

<B断面>



<C断面>



4-7 図4.1.9地質断面図 (A~C断面) SH=1:20000,SV=1:800

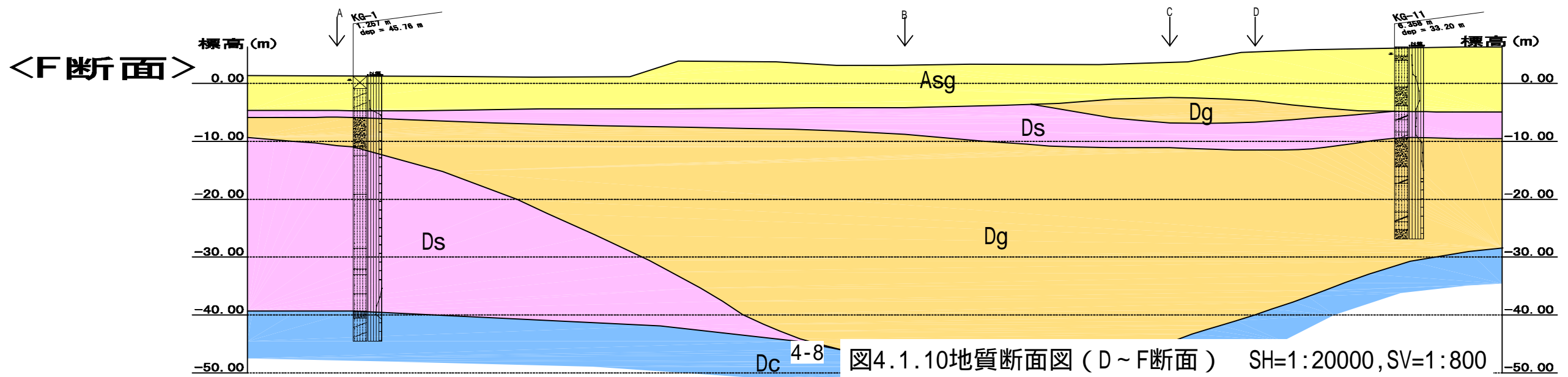
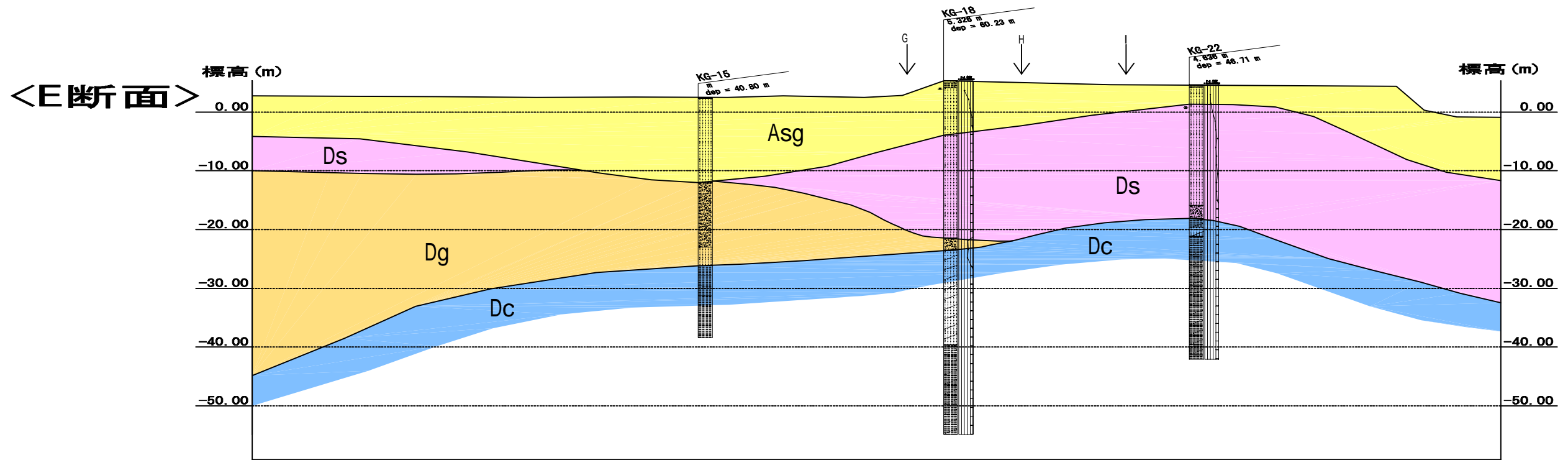
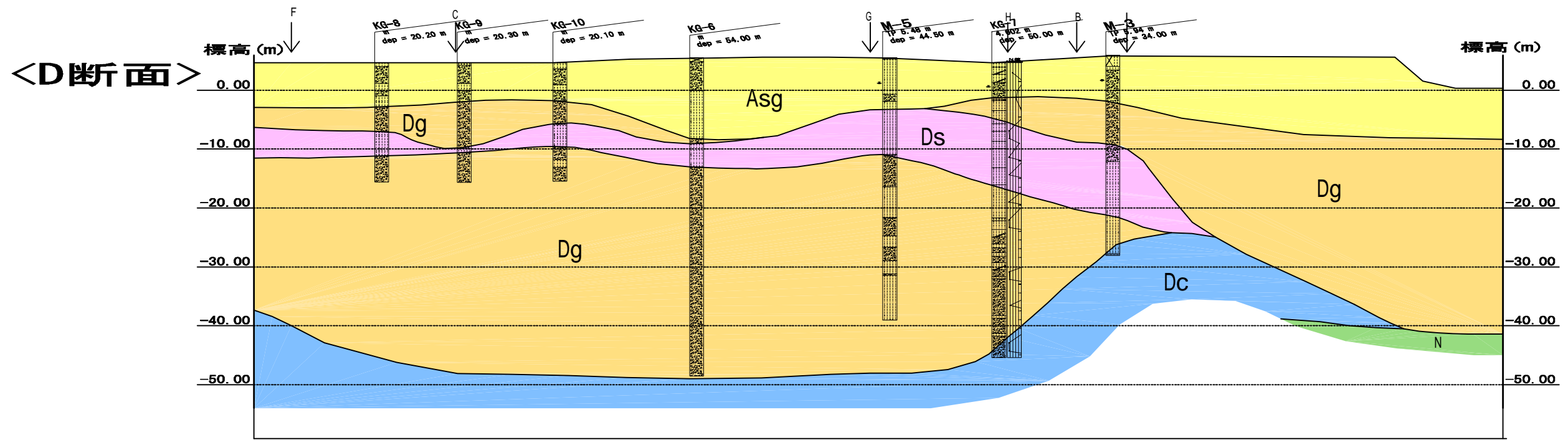


图4.1.10地質断面图 (D~F断面) SH=1:20000, SV=1:800

